

Satoru Sato Art Museum

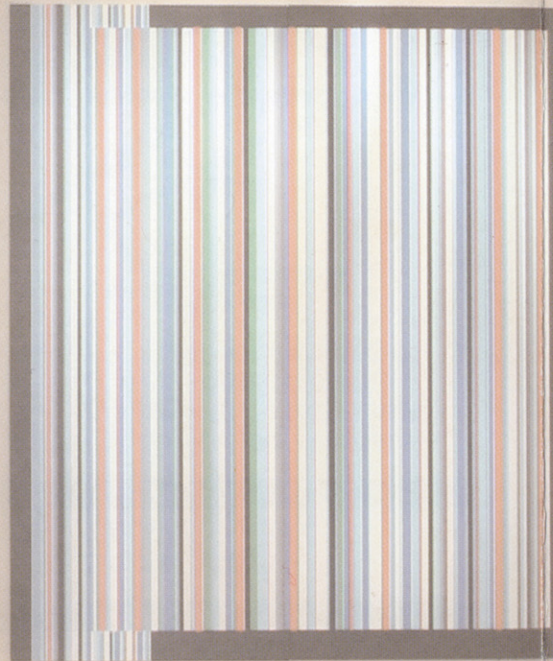
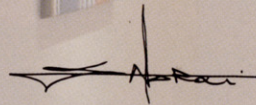
小さなメッセージ

Satoru Sato Art Museum常設展示作品は、佐沼高校時代から現在までの44年間のサトルの歩んだ道のりが見えてくる様なコレクションの数々となっています。

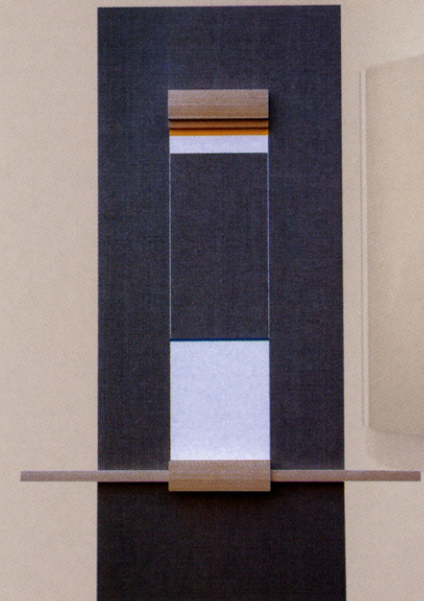
また、38年間のバリ滞在で出会った仲間達が寄贈して下さった多くの作品は、日本では珍しい、幾何学構成主義的絵画の傾向を中心にしたものです。小さいながらも、一つの傾向を集中的にコレクションする事は、全国的にも珍しく、特色ある抽象絵画、特に、幾何学構成的絵画に、ヨーロッパ美術の流れの一端を見る事ができるでしょう。1920年代、北ヨーロッパに生まれたこの傾向の流れは、変化しながら現代の若者に生き続け、新しい世界を構築する原動力に成る可能性を秘めています。

「本物」をじっくり観る事によって、自由に誰でも描ける丸、三角、四角、直線を生かした作品とどう向き合い、面白く、楽しく、遊び、考えながら、暖かさ、冷たさ、激しさ、厳しさ、穏やかさ、そして、バランス感覚を自然に感じ取っていただければと思います。

大自然と共に、無意識の中、芸術の本質を感じとって育つ子供達が、いつかその重要性に気づいた時、更にアートが息づく、“アートの面白さ”を願っています。



satoru '72



Distance 96-3

Satoru Sato Art Museumが収蔵する作家名

Agam	Branchet	Cruz-Diez	Freundlich	Lambele	Morisson	Pasquer	Ridell	Staccioli	Wechin
Allsop	Brandt	Dalefe	Fritz	Leppien	Moutashar	c. Patez	Riedel	Strack	Weyer
Andrade	Brühl	s. Delaunay	Froment	Lohse	Navrot	h. Patez	Rocamora	Städt	Wörn
Arden - Quin	Brusse	Denoval	Fruhtrunk	Lussigny	Nemours	Pattez	Roeckenschuss	Stempfel	Zangara
Bensasson	Busse	Deverne	Galvao	Mad	Nem's	Peire	Rompza	Thibaud	Zanotti
Bertolio	Cami	Dietrich - Mohr	Garcia - Rossi	madé	Neuhaus	Perez - Flores	Rougemont	Tomasello	
Bertrand	Campa	Dubreuil	Gramatzki	Mahlmann	Nicolato	Pinna	Saddi	Tschentscher	
Besse	Campus	Eloy	Guiffrey	Marinho	Nino - Calos	Piper	Salazar	Ugarte	
Bézie	Caporicci	Erdmann	Hernandez & Fernandez	Marino Di Teana	Orepük	Popet	Saint - Cricq	Vacher	
Binet	Carter	Fachard	Herrera	Margerie	Pahlitzsch	Presta	Saxon - Szasz	Vacossin	
Bolivar	Chilida	Fajo	Hieaux	Mavropoulos	Pala	Prosi	Schöffer	Vasarely	
Bourmaud	Colmenarez	Ferrand	Jonquieres	Meyer - Rogge	Paoli	Radoy	Seuphor	Villon	
a. Bozzolini	Contreras - Brunet	Forlivesi	Kocsis	Minoretti	Parquet	Ravelo	Soto	Viot	
s. Bozzolini	Cousot	Frangi	Kuhn	Mondrian	Parra	Reynolds	Steinbrenner	Warren	

- 1945 宮城県登米市（旧中田町石森）生まれ。
- 1969 東洋美術学校卒同校助手を経て、半年後、パリ国立高等美術学校に留学、グスタブ・サンジェの教室で1974年迄学ぶ。
- 1970 エジプト旅行。ピラミッドに出会い、構成・構造・幾何学の原点に接し衝撃を受ける。
- 1973 パリにて美術評論家・岡本謙次郎、ミシェル・スホール両氏に出会い、多大な影響を受け、永年に渡り交流が始まる。同時に、パリ在住の構成主義、幾何学的傾向の抽象作家達（ボソリーニ、ルビアン、ヌウムウル）との交流を通じて、パリの企画展などに参加し始める。
- 1986 パリで毎年開催される現代美術招待サロン（今日の巨匠と青年展）の運営審査委員に任命され、今日に至る。
- 1989 在仏20周年記念、自選回顧展が創庫美術館（新潟）、有楽町阪急、モリス・ギャラリー（東京）、藤崎ギャラリー（仙台）、ギャラリーコンベルジャンス（パリ、ナント）等で開催される。
在仏20年 佐藤 達 作品集（76ページ、著者：谷 新）が、創庫美術館より出版される。
- 1990 初めての野外彫刻、モニュメントを御影石で制作する。南方中学校、宮城県。
- 1991 国立パリ大学第八、造型芸術学科講師と成り、現在に至る。
- 1992 '92みなみかた国際アートフェスティバル（七人の現代作家）企画を担当する。花菖蒲の郷公園、南方町、宮城県。
- 1995 夏川ボンデザール（芸術橋）橋全体と周りの自然環境を取り入れた空間造型アート作品を制作、宮城県。パリの出版社「ガルニエ・ノセラ社」より、野外彫刻を中心にした作品集が出版される（63ページ、著者：ジェラルド・スリゲラ）。
- 1996 カメイ記念館にて、開館一周年記念企画展、佐藤達個展が開催される、仙台。
- 1998 キト市国際現代彫刻シンポジウムにて、エクアドル政府より第一等文化功労勲章を授勲する。
モニュメント（700×1414×4500cm）制作。
- 2000 サンチョン第一回国際彫刻シンポジウム制作にて、大賞（最優秀賞）を受賞、韓国。
タイトル《過去・現代・未来》のアートと周りの風景を取り入れた環境造形アート公園、諏訪公園（高福祉型農村公園）の設計、制作、中田町、宮城県。
朝鮮戦争終結50周年記念国際彫刻シンポジウム制作に対して、釜山広域市南区の名誉区民賞を受賞する。
- 2006 アンドラ公園の郵政省より、アンドラに制作したサトルの野外立体作品が記念切手として、30万部発行される。
- 2007 パリを拠点に、絵画、版画、立体造型を制作。ヨーロッパを中心に、これ迄に、個展70回、グループ展380回、世界30ヶ国で発表、又、空間環境・造型アートモニュメント制作は、40点を数える。

交通のご案内



- ◎東北自動車道若柳金成ICより……車で35分
- ◎三陸縦貫自動車道桃生津山ICより……車で40分
- ◎東北新幹線くりこま高原駅より……タクシーで45分
- ◎東北本線石越駅より……タクシーで20分

開館時間

午前9：00～午後5：00
（入館は午後4時まで）

休館日

日曜及び祝祭日
年末年始（12/29～1/3）
ただし、7月・8月は無休

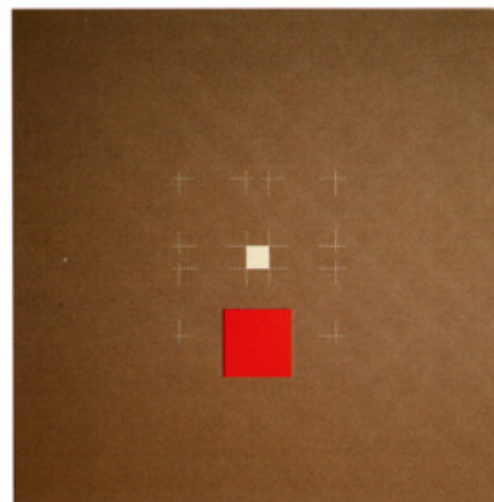
入館料

無料

問い合わせ先

〒987-0602
宮城県登米市中田町上沼字館43
（登米市中田生涯学習センター3F）
電話 0220-34-8081
FAX 0220-34-8084

Satoru Sato Art Museum



正方形に捧げる.XXXXXY 2006



Small white label below the first artwork.



Small white label below the second artwork.



Small white label below the third artwork.



Small white label below the fourth artwork.



Small white label below the fifth artwork.

